

第4回 ECE プログラム委員会幹事会 議事録

日 時：平成 23 年 2 月 24 日（木） 10:00-12:00

場 所：日本工学会事務所（港区芝 5-26-20 建築会館 6 階）

出席者（順不同、敬称略）：

幹事長 川島 一彦（東京工業大学大学院 教授）
幹 事 岡田 恵夫（(社) 日本技術士会、理事、研修委員会副委員長）
小松 生明（(社) 化学工学会人材育成センター 部長、化学工学分野）
高草木 明（東洋大学理工学部建築学科 教授、建築分野）
中崎 良成（NEC ラーニング 執行役員フェロー、基礎分野）
持田 侑宏（フランステレコム(株) CTO、電気分野）
事務局 柳川 隆之

配布資料：

幹事会資料 4-1：第 3 回 ECE プログラム委員会幹事会議事録案

幹事会資料 4-2：ナノエレクトロニクス ECE プログラムの進捗状況

幹事会資料 4-3：“物質・材料基礎 ECE プログラム”の一環として、平成 23 年度に実施する“先端計測とナノ物質 ECE プログラム”に関する打合せ要旨（案）

幹事会資料 4-4：先端計測とナノ物質 ECE プログラム(2011 年度)

幹事会資料 4-5：スマートグリッド（SG）に関する仁田先生との会合メモ（案）

幹事会資料 4-6：日本工学会 CPD 協議会 技術力向上教育プログラム（ECE プログラム）の推進について

議 事：

1. 前回議事録の確認

12 月 17 日に開催された第 3 回幹事会の議事録案が川島幹事長から説明され、原案通り確認された。

議事録の内容に関連して、ECE プログラムの進むべき方向についての意見交換が行なわれた。特に、当初考えていた学会の参画がないことについては、推進委員会に適任者を推薦してもらう、インターネットを通じて意見をもらう等の方策が出されたが、まずはいろいろな形式でやってみるのがよいのではないかということになった。

2. ナノエレクトロニクス ECE プログラムの進捗状況

ナノエレクトロニクス ECE プログラムの進捗に関する質問に対する秋永委員の回答が川島幹事長から報告され、了承された。修了証は対象者の名前が分かったら日本工学会で作成する。その際、見栄えのよいものにする工夫をすることになった。

3. 物質・材料基礎 ECE プログラムの立ち上げについて

長井委員から提出された先端計測とナノ物質 ECE プログラムの企画案、推進委員会構成、および前回の幹事会で提出されたイブニングセミナーとしてのプログラム案に関する幹事会委員からの

意見に対する長井委員の回答が、川島幹事長から説明された。審議の結果、提出された企画案が承認され、川島幹事長から桑原 CPD 協議会長および橋谷担当理事に報告して了解をもらうことになった。

審議の概要は次の通りである。

* 推進委員会メンバーに日本工学会から数名の参加を要請されているが、幹事会メンバーおよび関連学協会から委員を推薦してはどうか。(川島)

* 桑原 CPD 協議会長が重要視するアプリケーションは材料系では難しいのではないかと。(中崎)
⇒ 桑原会長に報告するが、以前には GO をもらっている。

* 受講者はどういう人か？(持田) ⇒ 化学工学会のイブニングセミナーは教養を目的としている。(小松)

* この案は試行なのか？(中崎) ⇒ イブニングセミナーは社会人向けであるが、この企画案は高度セミナーに当たるものである。両者を区別しようとしているようである。(川島)

* ECE として適切かどうかは工学会側で評価すべきである。(中崎)

* 改善点はこちらから提案しないといけないのではないかと。(中崎) ⇒ 高度技術者の育成は幹事会として譲れない点として、あとは推進委員会にある程度任せていいであろう。まだ、当会の中での体制も整っていないのも確かである。

* レポートの評価は難しい。(中崎) ⇒ これが修了者を選ぶフィルターになる。(高草木)

* 受講するとどういうメリットがあるかということを示すとよい。(高草木) ⇒ 長井委員に伝える。(川島)

* 資金を稼ぐ筋書きをどうするか。(高草木) ⇒ 当面は CPD 会費で賄い、有用性が確認されたところで考えたらよい。(川島)

4. スマートグリッド ECE プログラムについて

川島幹事長から、2月21日に仁田教授(明星大学)と面談し、同教授の影響力和学会の力でスマートグリッドのプログラムを組んでもらうよう依頼したところ、同教授が関係している委員会で ECE のテーマとすることを検討してみるという返事もらったことが報告された。ただ、同教授からの返事を待つのではなく、こちらからスマートグリッドの採りあげ方(切り口)を整理して、近いうち(3月頃)に同教授と話し合いを持つことにした。切り口の整理は中崎委員が担当する。審議の中で次のような意見が出された。

* 仁田先生をサポートする戦略・体制が必要である。(中崎、川島)

* 電気学会の委員を幹事会に加えるべきである。(川島)

* 都市工学の分野の人が興味を示すかもしれない。(高草木)

* 情報関係もビジネスチャンスと考えている。(中崎)

* 日本は停電が少ないので問題意識がアジア諸国とは違うのではないかと。(中崎)

* スマートグリッドはインテリジェントビルを大規模にしたような問題といえる。(高草木、岡田)

* 高度技術で無いかもしれないが、世の中で弾みがつく前に動かないといけない。(川島)

5. 日本工学会 HP における ECE プログラムの紹介について

川島幹事長から紹介文案の提案が行われた。審議の結果、状況報告のほかに参加募集を少し加え

ることとし、川島幹事長が文章を考えることになった。また、参加募集は CPD 協議会および日本工学会の会員学協会の会誌および web サイトに掲載して ECE 活動の周知とプログラムへの参加の呼びかけをしてもらうことにした。学協会向けのメッセージの文案は高草木委員が考えることになった。

6. その他

来年度の課題を、ナノテク、材料およびスマートグリッドの ECE プログラムを支援すると同時に、他のテーマを追求し 1 年に一つくらいを立ち上げてゆくことを目指すことにした。

次回第 5 回の幹事会を 4 月 26 日（火）10-12 時に日本工学会事務所で開催する。